

第21回
これってワクチン後遺症？
ケアマネが気を付けるべきこと



秘
ごこだけの話

在宅介護を 快適にする 極意

長尾和宏の

在宅医だから
伝えたい！



コロナワクチン接種後に 異変が起こる人たち

この原稿を書いているのは12月13日ですが、12月11日に、横浜で開かれたとあるシンポジウムで講演をしました。そのシンポジウムのタイトルは、<新型コロナワクチンを考える～ワクチン後遺症、ブレイクスルー感染、接種証明～>というものでした。主催は、私の本『ひとりも、死なせへん』に解説も書いていただいた医療ジャーナリストの鳥集徹氏^{とりだまり}、そして、僕のほかに京都大学ウイルス・再生医学研究所准教授の宮沢孝幸氏が基調講演をされました。

僕は、TwitterもFacebookもほとんど見ないのでよく知りませんが、コロナワクチンについて何か疑問を呈するだけで、ネットでは「反ワク」とか「陰謀論者」とか、「トンデモ医」などの批判を浴びるようです。このシンポジウムの開催にあたって、つべこべ言わずにワクチンを打て！ と何がなんでもワクチンを推奨する（しかもほとんどが匿名の）医師たちから、多くの言葉の矢が飛んできたとい

執筆▶長尾和宏

医学博士。長尾クリニック院長。公益財団法人 日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授。日本慢性期医療協会理事。ベストセラー『痛くない死に方』『ひとりも、死なせへん』（共にブックマン社）など著書多数。

ます。まるで、国賊扱い。戦時中に戦争反対の集会をしているような空気の中、このシンポジウムは、蓋を開けてみれば、すぐに500名満席となりました。

そこで、12月25日には大阪でも同じ催しを急遽開催することにしたのですが、こちらも、告知後すぐに満席となりました——ネットが支配する全体主義的な空気と、市民が受け止めている不安な現実には、大きな温度差があるのだと改めて肌で感じています。シンポジウムに出席された方の中には、ご家族や親戚、友人らがワクチンを打った後に急死したり、体調に異変が起きていることから、ワクチン接種に大きな疑問を抱き、この場所に来たという人が多くいました。だけ

ど、そのほぼ100パーセントの人が、「ワクチンとの因果関係は認められない」「気のせいだろう」という言葉を医療者から投げかけられ、どこに訴えてよいのか分からないまま行き場を失い途方に暮れているのです。病院をたらい回しにされている人もいます。そんな人の声に耳を傾け、おかしいものをおかしいと言うことが、どうして陰謀論者となるのでしょうか。目の前の患者の声を聞くこと。これは、医療者としての基本ではないでしょうか。

ケアマネも、まずは目の前の利用者の声を聞くことが鉄則なはずです。匿名のネットの声を忖度し、目の前で苦しんでいる人に「気のせいですよ」と平気で言える人は、ケアの仕事に